

「楽しいよ！」 信濃町の保育園



1. 出発！みんなでエイエイオー！／2. お友達とお話も弾む楽しい給食／3. 元気いっぱいの子どもたち／4. 天気のいい日は園庭で先生と一緒におままごと／5. 先生に抱っこしてもらい笑顔の園児／6. 先生の話聞き元気よく手を上げるみんな／7. すべり台を滑走！／8. 年長児の当番表

信濃町保育園の概要

保育園名	電話	定員	入園年齢	備考
野尻保育園	258-2345	45人	1～5歳児	延長保育
柏原保育園	255-3740	100人	0～5歳児	延長保育
古間保育園	255-2201	90人	0～5歳児	延長保育 一時保育 土曜保育
富士里保育園	255-3416	45人	1～5歳児	延長保育

信濃町保育園の保育理念等

保育理念とは、信濃町保育園の保育への想いです。保育士等は、この想いをもちながら、子どもたちの保育に携わっています。現状の子どもの姿だけを見るのではなく、将来の子どもの姿も見据えて、一人ひとりの子どもに寄り添いながら保育をしています。

保育理念

子ども一人一人を尊重し慈しみ、子どもの最善の利益を守り、保護者・地域と共に子育てができる保育園を目指す

保育方針

- ・豊かな自然の中で様々な体験を通して感性を高め、生き抜く力を育てる保育
- ・命を大切に、相手の痛みを共感し、解決に向かうやさしい心を育てる保育
- ・保育の専門性を発揮しながら、保育内容の質を高め充実させる

保育目標

- ・健康でいきいきと遊ぶ子どもを育てる
- ・思いやりをもって友だちと仲良く遊び愛することのできる子どもを育てる
- ・自分のことは自分で行き、最後までやり通す子どもを育てる
- ・自分の思いをはっきり話し、人の話もよく聞き理解しようとする子どもを育てる
- ・よく見つめ考え豊かな感性と創造性を持ち、楽しく表現する子どもを育てる

子どもたちに「保育園って楽しい？」と聞いてみると、みんなが次々に「お友だちがたくさんいるから楽しい！」「遊べるから楽しい！」「給食がおいしいよ！」と笑顔で話してくれました。

今年の4月、子ども・子育て支援新制度が公布され、保育園に関係した制度改正が進められています。保育園は子どもたちが健やかに成長する場の一つとして重要な役割を担っています。信濃町の子どもたちが、楽しく元気に成長するための保育園の取り組みを、子どもたちの笑顔と一緒に紹介します。

5月のぼかぼかとした暖かい日、古間保育園の園庭でこいのぼりを上げたとき「やねよりたかい、こいのぼり〜」と年長さんが誰となく歌い始めると、年中さん・年少さんの子どもたちも一緒に歌い出し、こいのぼりを見上げながらいつの間にか合唱となりました。そのほのぼのとした様子から、子どもたちの主体性や共に育ち合う力が、しっかり育っていると感じられました。

早い子どもでも0歳から、多くの子どもも3歳になると保育園に入園します。就学前の子どもは生涯にわたる人間形成にとって極めて重要な時期であり、その日常生活の大半を保育園で過ごすこととなります。その大切な時期に信濃町がどのような保育体制を取っているのか、また保育園が子育てに対し、どのような理念や方針を持って保育しているのでしょうか。

保育園はどんなところ？

保護者が仕事をしている、病気などの理由のために、家庭で

十分に保育することができない児童を保護者に代わって保育する施設です。子どもの保育を行い、その健全な心身の発達を図ることを目的としています。

①お父さん・お母さんが安心して働けるように、代わってお子さんの保育をするところです。

②年齢に合わせて、地域と関わりながら、子ども達がいきいきと生活できるところです。

③家庭や地域との交流を深め、子育ての相談や援助をしている

ところです。

保育園は子どもが安心して過ごせ、保護者が安心して預けられる施設を目指しています。

また、地域の育児の拠点としての役割も担っています。地域全体の子育てを支援していくために、各園ごとに取り組みを行っているんです。保育園に入園していない未就園児の一時保育を行ったり、地域の親子が集い交流できるちびっ子集まれや園庭開放も行っています。

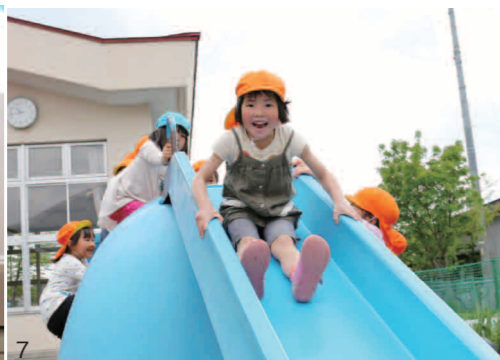


「園児のつばやき」を先生が紹介！

○雨上がりの空を見て「虹が出る」「虹ってどうして見えるのかな？」「きっとみてほしいんだよ」
○遊んでいる途中で雨が降ってきて空を見上げて「どうして泣いているんだろーねー」



○こいのぼりを見て「元気に泳いでいるね」「ご飯食べたから元気なんだよ」「みんなと一緒にだね」
○風が吹いて桜の花びらが散っているときに「風がふいて桜の花びらが踊ってるみたいだね」



保育園の楽しい取り組み

子どものより良い成長のためにいろいろな取り組みを行っています。その一部を紹介します。



楽しく遊び充実した1日を送るための基礎となるのが「食べること」です。子どもたちが、食に興味を持ち、楽しく食べる事ができる「食育」の取り組みに力を入れています。

行事食で地域の文化とつながる

5月、「子どもの日」の行事食として「かしわ餅」がおよつとして出ました。柏原保育園では、午後のおやつに満開の桜の下にシートをひき桜を見上げながら、かしわ餅を食べました。かしわ餅には、柏の木に新芽が出るまで古い葉が落ちないことから、子どもたちが健康やかに成長し、子孫代々栄えるようにといった願いが込められています。「季節の行事食を食べ、その由来を知ること、食べる意欲や食べ物への関心も高まる」と感じています」と高野榮

養士は話します。

食材に親しむ経験も

各保育園では野菜の栽培も行っています。富士里保育園はキュウリ、ミニトマト、ジャガイモ、サツマイモなどを作っています。子どもたちが植えて水をあげて収穫をします。キュウリやミニトマトの最盛期には、毎朝、子どもたちが収穫をしてお昼に野菜スティックで食べます。「これはぼくが取ったんだよ」と自慢げに話をして、みんな喜んで食べています。

食育を家庭へつなげる

実がなる様子を見て感動したり喜ぶことで、収穫した野菜も大切なものと感じるようになります。子どもたちは、自分で作ったものは食べようとします。苦手な食べ物でも食べられるようになることも多いです。

今年2月から給食当番も始めています。真っ白な給食着



望も常時受付しています。

お父さん、お母さんたちに「食育」への関心を持ってもらうこととで、保育園だけではなく家庭での「食育」へとつながっていきます。

地域の人とつながる保育園

信濃町保育園では保育理念に「地域と共に子育てができる保育園を目指す」と掲げているように、多くの地域交流を行っています。

年齢の違う子どもたち同士で遊ぶ機会が少ない今、信濃小学校と異年齢交流を積極的に行っています。中学生が保育園にきて交流を行い、保育士に興味のある8年生の職場体験を受け入れています。また、子どもたちが将来通うことになる信濃小中学校に行き小学生との交流も行っています。

地域の農業とつながる

地域の方の協力で、子どもたちに農作物に親しみ地域農業にふれる機会を作っています。農作物を育てる喜びと、農作物が人が手をかけて作られていることを子どもたちに伝えます。

1. 給食をおいしそうに食べる園児/2. 満開の桜の下で食べる柏餅/3. 先生が給食の食材を紹介/4. 給食を着て真剣に盛りつけ/5. みんなでサツマイモを採ったよ!/6. 月1回の給食展示とレシピ/7・8. ブルーベリー農園の様子/9. 地域の人と花植え交流/10. おらが学級でサツマイモ植え

古間保育園では、おらが学級でお年寄りやサツマイモと一緒に植えて収穫をします。おじいちゃん、おばあちゃんにサツマイモの植え方を教えてもらい「ここにいれて」「こっちもあるよ」と一緒に植えます。丸山園長は「おじいちゃん、おばあちゃんたちが、子どもたちの元気な様子を目を細めて見つめていたのが印象的でした」と、交流の様子を振り返ります。野尻保育園では野尻のお祭りに合わ

地域との交流では、全保育園でおらが庵やひだまりセンターの方と交流を行っています。また、各保育園ごとに地域性を活かしています。柏原保育園では黒姫学級で地域のお年寄りとの交流を行っています。

古間・富士里保育園では子どもたちが毎年、ブルーベリー農園に出掛けています。農家の方から「畝によって種類が違い、味が違うんだよ。小さい粒のジャム用や大きい粒の食用があって、500円玉ぐらいの粒もあるの、見つけて食べてみてね」と、子どもは説明を受けた後、ブルーベリー摘みを楽しみます。「僕のほうが大きいよ」「大きいの見つけた!」と大きさを比べをしたり、味見をしてみたり、目を輝かせて探していました。



保育園長代表（柏原保育園長）
柳澤 美香

子どもたちが笑顔で 楽しい保育園へ

私たち保育園の職員は、大切な子どもたちの育ちの手助けができればと思っています。子どもたちの育ちは、発見・感動・伝達・共感の繰り返しです。失敗することの勇氣、失敗しても「やるぞ〜」というこの肯定感、こうしたことを保育園で大事にしていきたいです。それが生きる力の基礎にもなると思います。

子どもたちが保育園に朝来て、今日はあれをやりたいと思う環境を作っていきたいと思っています。子どもたちのキラキラとした瞳を見ていると「子供っていいな〜」と心から思います。本当にこの仕事に誇りとやりがいを感じ、子どもたちに癒されています。そんな子どもたちが、笑顔で楽しく保育園生活を過ごせるために、子供たちの内なる思いをしっかりと受け止めていければと思います。

子どもの気持ちや保護者の方の想いを聞き、その思いに一緒により添える保育園を目指します。そして地域とのつながりを大切にして、「ぬくもり」のある保育園になっていければと思います。

保育への想い

保護者と保育園の想いがつながり
子どもがいきいきと健やかに成長する保育へ



保護者の声②
おとまる まいこ
乙丸 麻衣子さん
このは
小乃葉さん

最初、保育園に預けるのは心配でした。お友達と仲良くできるのか、泣き続けないかと。でも、富士里保育園が少人数ということもあり、一人ひとりに先生の目が行き届いているなと感じます。送り迎えの時に先生から「今日はこれがありました」と話してくれるので、今は安心して預けています。

保育園でみんなと生活するようになり、服の着替えも率先してするようになりました。入園前は自分の気が乗ったときにしかやりませんでした。自分で何でもやれたがるし、やってくれるようになりました。きっと、保育園でお友達がいる姿を見ているのだと思います。

それと好き嫌いが激しくて、給食を食べられたときに担任の先生と給食の先生が「食べてくれた!」といって喜んでくれたことが本人もうれしかったし、先生たちもうれしかったというのを聞いて、私もうれしく思いました。そんなふうにみんなに見守ってもらい、みんなで喜んでくれることがうれしいです。



保護者の声①
たけだ みつこ
竹田 三津子さん
あおい けんたろう
葵くん・健太郎くん

男の子で元気でよく動く子なので、入園してみんなと集団生活ができるのか不安がありましたが、「保育園は楽しい」と言ってくれているので、すごく良かったなと思います。家に帰ってくるとリズム室で大きな積み木で遊んだことを教えてくれたり、保育園でいろいろな歌を覚えてきて、家で歌ってくれたりしてくれます。

入園して1ヵ月ちょっとになりますが、保育園ごはんを箸で食べるようになりました。家では自分から進んで箸で食べようとしませんでした。そういうのも自然とできるようになり、1ヵ月の間だけでも成長している姿が見られます。集団生活をする中で、少しお兄ちゃんらしいところも見せてくれるようになってきたかなと感じます。

入園前は3人の時間が多かったので、友達と関わったりすることは少なかったかなと思います。保育園はたくさん友達がいることがいいと思います。

全国的に子育ての孤立化等の問題が指摘される中、「保育園は楽しい」をテーマにした今回の特集でした。これは、ある保育士の手記です。

「子どもたちは、夏の花火大会を楽しみにしています。そこで毎年楽しみにしている打ち上げ花火を、壁面の大きな紙に絵の具を使ってみんなで描くことにしました。

準備された様々な絵の具を見た子どもたちから喜びの声が上がりました。一人ひとりが楽しみながら書いていく姿が見られました。どんどん描き進めていくうちに一人の女の子が「色を混ぜて描いてもいいの?」と聞いてきました。普段はあまり自分から思いを言うことが少なかった子から上がった声に少し驚きました。が、いきいきとしたその表情を見てとてもうれしかったです。他の子もその女の子のように色を混ぜ始め、さらに盛り上がりました。完成した花火をみんなで見ると「A君の花火大きいですね」「Bちゃんの色がきれいだね」と、子どもたちの表情も満足そうでした。

無限の可能性を秘めた子どもたちの笑顔が、もっと信濃町にあふれるように、地域全体で温かく見守っていきましょう。

